

昭和62年  
1月1日  
発行  
第115号

発行所  
日本赤十字新労組連合会  
(日赤新労)  
東京都港区浜松町2-2-14  
K Iビル802  
TEL (03) 433-3028  
発行責任者  
鹿島 順

# 日赤新労

**綱 領**

1. 吾々の権利は、社会正義に立脚した良識は、労働生活の安定と向上を期す。
2. 吾々の自由は、常に力と独裁を排し、民主主義を期す。
3. 吾々の進歩は、赤十字の精神と近代的な人道の任務を達成する。

## 第三回中央委員会ひらく

12月14～15日 山口県・笠戸島

### ベア経過など諸報告を審議

### 62年度運動方針を決める

瀬戸内海を望む景勝の地、笠戸島(山口県)において、中央委員、オブザーバー、本部役員を含む多数の参加の下に、第三回中央委員会が盛大に開催された。本年の第26回定期大会を目指し、昭和六十二年運動方針案をはじめ、予算案等の重要議題について活発な審議が行われた。

十四日午後二時に開会し、資 格審査、成立確認の後、議長に酒井孝一氏(千葉血セ)、副議長に梅村正一氏(名二日赤)、書記に西村和典氏(大津日赤)を選出し、川出中央執行委員長の挨拶に続いて議事に入った。

報告の部は、各部(組織・教育・調査・婦人)の担当部長より報告が行われ、二、三の質問の後、承認された。

#### 議 題

一、昭和六十二年運動方針案について  
二、昭和六十二年予算案について

一、情勢と運動の基調  
二、国内情勢  
三、労働条件改善への取り組み  
四、組織の活性化と拡大強化  
五、婦人部労働対策等について

また、国際、国内情勢の今後の変化が予想される部分については、本部が定期大会の時点までに修正、加筆することで了承された。

審議の結果、満場一致で可決された。また、予算案全体については、若干の質疑応答の後、原案どおり可決された。

協定書について  
国民の祝日に関する法律、また、労働基準法の改正に伴い変更となった事項について本社本部間で、次のとおり協定することと承認された。

協定書  
日本赤十字社と日本赤十字新労組連合会は、左記のとおり協定する。



第3回中央委員会 (12月14～15日)

期日、昭和六十二年二月二十日～二十四日、場所、福島県いわき市を予定。  
大会役員、議長Ⅱ第二ブロック、副議長Ⅱ第三ブロック、大会書記Ⅱ第一ブロック、議事運営委員Ⅱ第一・第二・第三・第四・第五・第六・第七・第八・第九・第十・第十一・第十二・第十三・第十四・第十五・第十六・第十七・第十八・第十九・第二十・第二十一・第二十二・第二十三・第二十四・第二十五・第二十六・第二十七・第二十八・第二十九・第三十・第三十一・第三十二・第三十三・第三十四・第三十五・第三十六・第三十七・第三十八・第三十九・第四十・第四十一・第四十二・第四十三・第四十四・第四十五・第四十六・第四十七・第四十八・第四十九・第五十・第五十一・第五十二・第五十三・第五十四・第五十五・第五十六・第五十七・第五十八・第五十九・第六十・第六十一・第六十二・第六十三・第六十四・第六十五・第六十六・第六十七・第六十八・第六十九・第七十・第七十一・第七十二・第七十三・第七十四・第七十五・第七十六・第七十七・第七十八・第七十九・第八十・第八十一・第八十二・第八十三・第八十四・第八十五・第八十六・第八十七・第八十八・第八十九・第九十・第九十一・第九十二・第九十三・第九十四・第九十五・第九十六・第九十七・第九十八・第九十九・第一百。

### 婦人部代表者会議も

#### 四週五休の積極的実施など決定

十一月十六日より十八日の三日間、益子焼で有名な、土呂うり筋木原芳賀郡益子「とき」において全国各単組代表者、オブザーバー、本部役員出席のもとに昭和六十一年度代表者会議が盛大に開催された。本会議を前に部会支部(今回は出席者なし)(血液センター病院)が行われ、センターでは、採血業務の現状、労働条件(日曜祭日採血)について、病院では現況の各単組間の情報交換、産前産後休暇、育児休業、保育所問題、四週五休等について意見交換がなされた。

引き続き、栃木県婦人少年室室長木村雅世子氏による「男女雇用機会均等法の最近の現状について」講演があり、その内容をまとめると、この法律の制定に至るまでの歴史、即ち国際婦人年を境に活発に討議され不完全ながら制定に至った点、施行(昭和六十一年四月一日)後どう変化しているか、特に事業主の講すべき措置としての募集(表示の変化)、採用(採用条件、採用テスト)、新人教育の方法(コース別の差)、能力評価、定年制の男女差、住宅資金貸付返済条件での差等について具体的な変化が表面的にはできてきている。

しかし、これからの法の適正な施行には、男性、女性いずれにおいても意識改革が重要であること。特に女性自身の職業に對しての意識改革が大切である点が強調された講演であった。参加者一同よい学習になったのではないかと感ずる。

次に二日目は本会議に入り、議長荒井皇江氏(芳賀)、書記大久保あつ子氏(浜松日赤)を選出し、川出中央執行委員長の「四週五休実施への積極的な取り組み」を求められた挨拶があり、①一般経過報告、議案(昭和六十一年度婦人部運動方針案)について、②本部役員について、③その他について、熱心な討議がされた。熱心な討議がされた。熱心な討議がされた。

動方針案について  
前文男女雇用機会均等法施行と今日の課題は誤字訂正、文章是正が各々なされた。活動方針①②③についてその主旨説明など質疑応答が活発にされ、一項目づつ審議、多数の賛成で婦人部として決議。第三回中央委員会へ提出することとした。

二、昭和六十二年本部役員  
立候補及び推薦を依頼したが選出が無く第三回中央委員会へ提案する。

明けまして  
おめでとう  
ごいします



婦人部代表者会議 (11月16～18日)



盛大におこなわれた40周年記念式典

### 40周年で決意新たに

## 名一病院従組が

昭和二十一年三月、名古屋赤十字病院職員組合結成、昭和二十五年四月に名古屋第一赤十字病院従組員組合と名称変更をして以来、本年四十周年を迎える。去る十一月二十七日、結成四十周年記念式典並びに祝賀パーティーを院内古川講堂において、祝花十八対の寄贈を受け華やかな中で挙行了。来賓として、病院三役、単組歴代執行委員長、日赤新労中央執行委員長を始め、各組織系列の代表者三十数名をお招きし、盛況の内に開会となった。

# 40周年



挨拶する川出中央執行委員長

品物の贈呈があり、会場は真に式典のクライマックスとなった。各来賓の方々より祝辞を賜わり、更に感銘の雰囲気にも包まれた。

各組織の同志から寄せられた、祝電三千通有余が披露された。会場全体が熱いばかりの拍手の中、閉会の辞となった。われわれは、この四十年間の歴史

を基礎として決意を新たに頑張ることを誓い合った。式典後、会場の模様を一変して、祝賀パーティーに入った。十五のテーブルは、超満員(立食)の状況で、会場内を移動することもできない程の大盛況。

労使はもとより、ドクター、来賓が入り混じり美酒を交わし、四十年記念に相応しい祝宴となった。楽団、歌手の歌に乗ってムードは最高潮。リズムに合わせて踊る者、一緒に歌う者と会場は一

### 三輪執行委員長の「挨拶」

一口に四十年と申しまして、次の世代に送り届ける責任を自覚し、時代がいかに変わろうとも、基本路線をしっかりと守り、本日唯一新しい時代の第一歩を力強く踏み出すことに致します。

昭和四十年以来、結核療養専門病院としてその予防と治療に専念し、県民の医療に貢献してきた本院が、高齢化社会に向かつての医療対策として病室性老人に光を当て、老人病センター設立をめざしました。組合活動のイデオロギーである自分達の職場をより立て病院の経営に協力し、その中から組合員の経済的要求を獲得する方針である。我われは、本院再建に向かって全面的に協力し、昭和六十三年春竣工を目指して頑張っています。

## 北から南から



### 陶芸教室で汗をかいた

#### 婦人部代表者会議参加の一行

婦人部代表者会議三日目の十参加。よく晴れ、肌寒さは感じ二月十八日、益子焼陶芸教室へ、ながら一行は益子焼の工房につ



陶芸教室で熱心に習作する婦人部代表者会議参加のみなさん

かちこに出かける。最初、作成工程の見学をし、窯焼きの湯呑に絵付作業を実演する。江戸末期建設といわれる民家の土間に設置されたろくに、工房指導の方から実演説明をうけ出しをされた後、エプロン、スカート裾を処理。袖まくりをし陶工種石工門よろしく坐り、子どもの頃の粘土細工を思い出しながら各々、目的の品物、即ち湯呑、小皿、抹茶茶碗を作るところをまわ

去る十一月二十一日(金)、ケ丘ボウルにおいて、総勢百三十名の参加のもとに盛大に開催された。

### ボウリング大会盛大に

#### 名二日赤が職場対抗戦実施

今日大会は、レーンを職場単位でまとめたため、開始早々から熱が入り、各レーンでは、ストライクが出るたびに歓声が上がり、中には手を取り合せて喜ぶ姿も見られ、大変活気溢れる大会となりました。



個人優勝した小林俊行さん

## 今津赤十字病院が再建をめざす

### 昭和63年春に竣工予定

昭和四十年以来、結核療養専門病院としてその予防と治療に専念し、県民の医療に貢献してきた本院が、高齢化社会に向かつての医療対策として病室性老人に光を当て、老人病センター設立をめざしました。組合活動のイデオロギーである自分達の職場をより立て病院の経営に協力し、その中から組合員の経済的要求を獲得する方針である。我われは、本院再建に向かって全面的に協力し、昭和六十三年春竣工を目指して頑張っています。

最後に言われた表彰式では、入賞者への暖かい声援と拍手が会場に満ちあふれ、全体を



第26回定期全国大会開催地 昭和62年2月22日(日)～24日(火)まで



今津赤十字病院完成予想図

